

過去問プラス PLUS 資料解釈 No. 6

東京都 I 類 B 2016 実数のグラフ

難易度 ★★★★★

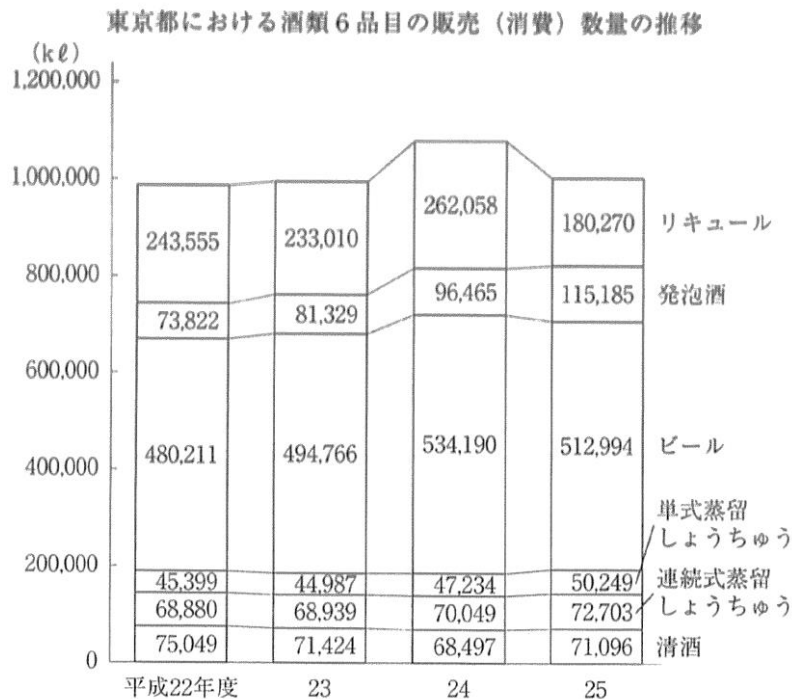
重要度 ★★★★★



参考項目 資料解釈ザ・ベスト プラス #4-3

問題

次の図から正しくいえるのはどれか。



- 平成 22 年度から 24 年度までの 3 か年における清酒の販売（消費）数量の 1 年当たりの平均は、70,000 kℓを下回っている。
- 平成 22 年度における単式蒸留しょうちゅうと連続式蒸留しょうちゅうの販売（消費）数量の計を 100 としたとき、24 年度における単式蒸留しょうちゅうと連続式蒸留しょうちゅうの販売（消費）数量の計の指数は、110 を上回っている。
- 平成 23 年度から 25 年度までの各年度についてみると、酒類 6 品目の販売（消費）数量の合計に占めるリキュールの販売（消費）数量の割合は、いずれの年度も 23% を下回っている。
- 平成 23 年度から 25 年度までの各年度についてみると、ビールの販売（消費）数量に対する発泡酒の販売（消費）数量の比率は、いずれの年も 0.20 を下回っている。
- 平成 24 年度における販売（消費）数量の対前年度増加率を品目別にみると、最も大きいのは発泡酒であり、次に大きいのはリキュールである。

過去問プラス^{PLUS} 資料解釈 No. 6

解説

- 肢1** 3か年で70,000を下回っているのは24年度の68,497だけで、1,500程度しか下回っていません。これに対して22年度は75,049で、5,000以上、上回っています。
よって、平均は70,000を下回っていません。
- 肢2** 22年度→24年度で、単式は45,399→47,234で、その差は2,000以下ですから1割も増加していません。
連続式も68,880→70,049で同様です。
よって、その和も当然、1割も増加していませんので、指数が110を上回ることはありません。
- 肢3** 23年度について、合計は1,000,000を下回っていると、左目盛から読み取れます。
しかし、リキュールは230,000を上回っていますので、その割合は23%を上回ります。
- 肢4** 25年度について、ビールは512,994で、これの20%=1/5は、110,000を下回ります。
しかし、発泡酒は110,000を上回っていますので、その比率は20%を上回ります。
- 肢5** 23年度→24年度で、発泡酒は81,329→96,465で、その差は15,000以上ですから、2割近く増加しています。
また、リキュールは、233,010→262,058で、その差は30,000弱で、1割以上は増加していますが、発泡酒には及びません。
その他については、いずれも1割も増加していませんので、最も大きいのは発泡酒、次はリキュールで、本肢は正しいです。

正解 5

東京都の資料解釈って、
毎年同じ形のグラフが出るのね。
きっと、面倒だからよね!?

